

静岡県沿岸沖合域における海洋研究

(予算区分 受託 研究期間 1997 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所 資源海洋科 上原陽平

【研究の背景とねらい】

蓄積・取得した海洋情報を解析して、静岡県沖合の黒潮流路変動や静岡県沿岸沖合域の海洋特性を把握し、漁場形成予測やより高度な資源管理情報を漁業者、関係団体へ伝達します。

【これまでに得られた成果】

(2018 年度までの成果)

- ・ 1950 年代に開始した定地観測、1960 年代に開始した調査船による定線観測を継続し、蓄積・取得した海洋情報等を基に漁海況情報を関係漁業者に情報提供しました。

(2019 年度の成果)

- ・ 2019 年度の黒潮流路は、大蛇行が継続し、期間を通じて A 型で推移しました (図 1)。
- ・ 黒潮流路が A 型の時には、沿岸に暖水が波及しやすく、定地水温は高めになる傾向があります。2019 年度の焼津における定地水温は、概ね期間を通じて「やや高め」*1～「高め」で推移し、10 月上旬には「かなり高め」となりました (図 2)。

*1 「やや高め」 平年比+0.5～1.4℃、「高め」 同+1.5～2.4℃、「かなり高め」 同+2.5℃以上

- ・ 調査結果を基に、漁海況情報を 1 回／月、漁海況の予測を 3 回／年発表したほか、研修会や F A X 等を通じて随時関係漁業者に情報提供しました。

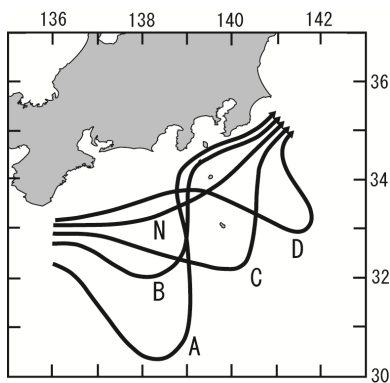


図 1 黒潮流路の型

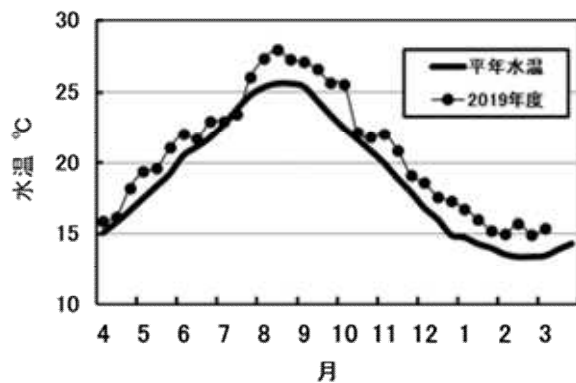


図 2 焼津の定地水温

【期待される効果】

- ・ 沿岸沖合域の漁海況予測を活用することで、効率的、経済的な操業が可能となります。
- ・ 沿岸沖合域の海況に基づく資源生物の成長・回遊等の解析により、より高度な資源管理を可能にします。
- ・ 長期間の蓄積データを解析することで、温暖化等に関連した長期的な環境把握が可能となります。

【今後の計画】

静岡県沿岸沖合域の海況調査を継続実施し、海況変動と漁況変動との関係を明らかにするとともに、漁海況予測の精度向上を図ります。

(作成 2020 年 4 月)